

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		運動療育センター ぐらんど		公表日		2026年 3月 31日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	8		運動療育を主軸とした広い運動室と学習室を確保し、安全面に配慮した環境整備を継続している。利用児童の人数や特性に応じて活動空間を柔軟に調整し、事故防止と活動の質向上を図っている。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	8		基本人員に加え、加配職員および専門職（看護師・機能訓練指導員等）を配置し、多職種連携による支援体制を構築している。運動療育の専門性を高める体制づくりを意識している。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	8		視覚的支援（掲示・スケジュール表示等）を充実させ、活動の見通しが持てる環境づくりを行っている。運動とクールダウンの空間を明確に分け、情緒の安定につなげている。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	8		毎日の清掃・消毒に加え、運動器具の安全点検を定期的実施し、安全管理体制を強化している。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	8		個室2部屋を活用し、個別支援・クールダウン・保護者面談など多目的に対応している。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	8		朝礼・昼礼・終礼に加え、月次会議で支援の振り返りを行い、具体的改善策を設定している。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8		前年度のアンケート結果を踏まえ、改善策を実施。結果を職員会議で共有し、具体的な取り組みに反映している。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8		定期的な職員会議に加え、日々の朝礼・昼礼・終礼や情報共有ツールを活用し、職員の気付きや提案を即時共有している。出た意見については検討事項として整理し、具体的な改善策として実行に移している。多職種の視点を活かした改善体制を継続している。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		8		現在は未実施だが、外部研修参加や他事業所との情報交換を通して客観的視点を取り入れている。今後も第三者的視点の導入を検討する。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	8		年間研修計画を作成し、虐待防止・身体拘束適正化・感染症対策・安全管理等の必須研修を計画的に実施している。加えて外部研修への参加を推進し、運動療育の専門性向上にも努めている。研修後は内容を共有し、実践に反映している。		
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	8		支援プログラムはガイドラインおよび5領域を踏まえて作成し、ホームページ等で公表している。運動療育を軸としながらも、社会性・コミュニケーション・生活面の支援をバランスよく組み込んでいる。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	8		定期的なアセスメントおよびモニタリングを実施し、保護者・本人のニーズを丁寧に確認している。標準化ツールと日々の観察を組み合わせ、客観的根拠に基づいた計画作成を行っている。		
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、機能訓練指導員・看護師・直接支援職員等が参加し、多角的な視点から検討を行っているか。	8		児童発達支援管理責任者だけでなく、機能訓練指導員・看護師・直接支援職員等が参加し、多角的な視点から検討を行っている。運動面・医療面・生活面を総合的に考慮した計画作成を行っている。		

適切な支援の提供	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	8	支援計画は全職員で共有し、日々の支援前後の打ち合わせで進捗確認を行っている。必要に応じて柔軟に修正し、計画と実践が乖離しない体制を整えている。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	8	複数のアセスメントツールを活用するとともに、運動面の変化や行動観察を組み合わせ、多面的評価を行っている。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	8	放課後等デイサービスガイドラインの「本人支援・家族支援・移行支援・地域連携」を踏まえ、具体的かつ達成可能な目標を設定している。スモールステップを意識し、成功体験の積み重ねを支援している。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	8	活動の目的や期待される効果を明確にした上で、職員会議にてチームで立案している。運動療育の負荷設定や安全面も考慮し、児童の発達段階に応じた内容を検討している。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	8	運動プログラムにおいても強度や目的を段階化し、スモールステップで成功体験を積み重ねられるよう工夫している。子ども会議で意見を反映している。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	8	アセスメント結果および保護者からの情報を踏まえ、個別支援と集団活動を適切に組み合わせた計画を作成している。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	8	毎日の朝礼・昼礼で当日の支援内容、役割分担、配慮事項を確認している。運動活動においては安全面・体調面の確認を徹底し、全職員が共通認識のもと支援を行っている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	8	終礼および共有ツールを活用し、その日の支援の振り返りを実施している。成功事例だけでなく課題やヒヤリ事例も共有し、翌日の支援改善につなげている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	8	日々の支援記録を確実に残し、行動変容や運動面の変化を可視化している。記録はモニタリングや計画見直しの根拠として活用している。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	8	定期的なモニタリングに加え、目標達成状況や発達段階の変化に応じて随時見直しを行っている。形式的な見直しにとどまらず、実践に即した修正を心がけている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	8	自立支援・創作活動・地域交流・余暇支援等をバランスよく取り入れ、運動療育を中心に複数の基本活動を組み合わせ支援している。	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	8	活動選択や役割決定の場を意図的に設け、自己選択・自己決定の機会を保障している。運動活動においても挑戦内容を本人が選べる仕組みを取り入れている。	
	関係機関	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	8	児童の状況を十分に把握している職員が参加し、日々の支援内容や運動面の成長状況を具体的に共有している。多職種視点からの情報提供を心がけている。
27		地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	8	学校・医療機関・相談支援専門員等と必要に応じて情報共有を行い、支援方針の整合性を図っている。医療的配慮が必要な児童については看護師を中心に連携を強化している。	
28		学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	8	学校の予定や下校時間の確認を徹底し、送迎時の情報交換を継続している。トラブルや変化があった場合は迅速に連絡し、支援の一貫性を保っている。	
29		就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	8	就学前の支援内容や特性を把握し、継続性のある支援を意識している。必要に応じて関係機関との情報共有を行い、切れ目のない支援体制づくりに努めている。	

や保護者との連携	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	8	卒業事例はまだ無いが、将来の自立を見据えた目標設定を行い、関係機関との情報共有体制を整備している。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	8		研修参加に加え、助言を求める体制づくりを進めている。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	8		今後、合同イベントや交流行事を企画し、地域との接点づくりを進めている。
	33	(自立支援) 協議会等へ積極的に参加しているか。	8	地域の自立支援協議会や関係機関主催の研修等に継続的に参加し、地域課題や制度動向の把握に努めている。得られた情報は職員間で共有し、支援内容の質向上につなげている。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	8	送迎時や連絡ツールを活用し、日々の様子や成長の変化を丁寧に伝えている。半年ごとのモニタリングでは発達状況を整理し、課題と目標を保護者と共有している。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	8	日常相談に加え、運動参観や情報提供を通して家庭での関わり方を共有している。今後、家族支援プログラムの体系化を検討していく。	
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	8	契約時および変更時に、運営規程・支援内容・利用者負担等について書面を用いて丁寧に説明している。不明点がないか確認しながら進め、理解と同意を得ている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	8	支援計画作成前に、保護者および本人の希望や目標を必ず確認している。本人の意思表出が難しい場合も、日々の様子から意向を汲み取り、子どもにとってより良い支援となるよう計画を立案している。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	8	放課後等デイサービス計画を提示し、具体的な支援内容と目標を説明した上で同意を得ている。専門用語を避け、分かりやすい説明を心がけている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	8	日常的な相談に随時対応し、必要に応じて面談を実施している。専門職の視点を活かした具体的な助言を行い、家庭と連携した支援を心がけている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。	8	運動参観日に加え、交流機会の定期開催を計画している。	
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	8	苦情対応体制を整備し、契約時に説明している。苦情があった場合は速やかに事実確認を行い、再発防止策を検討・共有している。内容に応じて記録を残し、組織的対応を徹底している。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	8	月間活動予定表や連絡ツール、SNS等を活用し、活動内容や行事予定を継続的に発信している。単なる報告にとどまらず、活動のねらいや成長のポイントも伝えるよう工夫している。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	8	個人情報は鍵付き書庫で適切に保管し、データ管理についてもアクセス制限を設けている。職員へ守秘義務の周知を徹底し、研修も実施している。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	8	児童の特性に応じて視覚支援や具体的な言葉掛けを行い、意思疎通を図っている。保護者に対しても分かりやすい説明を心がけ、必要に応じて書面での補足を行っている。	
45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	8	隣接事業所との交流や合同イベントを実施し、地域との関わりを大切にしている。今後も地域住民が参加できる行事を企画し、開かれた事業運営を推進していく。		

非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	8		事故防止・感染症・防犯・緊急時対応等の各種マニュアルを整備し、定期的に見直しを行っている。想定訓練を実施し、実効性のある体制づくりに努めている。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	8		業務継続計画（BCP）を策定し、非常災害を想定した避難訓練を定期的に行っている。訓練後は振り返りを行い、改善点を整理している。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	8		利用開始前に服薬状況や既往歴を確認し、変更があった場合も速やかに情報共有している。医療的配慮が必要な児童については看護師を中心に対応している。	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	8		医師の指示書および保護者との情報共有に基づき、看護師を中心に適切に対応している。誤食防止のための確認体制を整備している。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	8		安全計画を策定し、定期的な研修・訓練・設備点検を実施している。運動療育においては特に転倒・衝突防止に配慮し、安全配慮を最優先として支援を行っている。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	8		安全計画の概要については契約時や必要に応じて説明している。日頃から保護者と情報共有を行い、連携を図りながら子どもの安全確保に努めている。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	8		ヒヤリハット事例が発生した場合は速やかに報告書を作成し、ミーティングにて共有している。原因分析を行い、具体的な再発防止策を検討・実施している。また、類似事例の未然防止の観点から環境整備や支援方法の見直しも行っている。特に運動活動における転倒・衝突リスクについては、活動内容や動線の見直しを随時行い、安全性向上に努めている。	
53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	8		虐待防止委員会を設置し、定期的な研修および自己点検を実施している。外部研修にも参加し、権利擁護の視点を職員間で共有している。日常の支援においても声かけや関わり方を振り返り、不適切支援の未然防止に努めている。		
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	8		事例はないが、委員会設置と研修を継続し未然防止に努めている。		

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	運動療育センター ぐらんど		
○保護者評価実施期間	2026年 2月 16日		2026年 2月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	25	(回答者数) 20
○従業者評価実施期間	2026年 2月 16日		2026年 2月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 31日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	運動療育を軸とした専門的支援	当事業所では、運動療育を中心とした活動を通して、体力づくりだけでなく、集団参加や順番理解、自己コントロール、コミュニケーションなど社会性の発達につながる支援を行っています。子ども一人ひとりの発達段階や特性、当日の様子に応じて活動内容や役割を調整し、無理なく参加できる環境づくりを大切にしています。また、成功体験を積み重ねられるよう声かけや関わり方を工夫し、自己肯定感や意欲の向上につなげています。	今後は、運動プログラムと個別支援計画との関連性をより明確にし、発達支援の5領域とのつながりを意識しながら活動内容を整理することで、より効果的な支援の充実に取り組んでいきます。
2	子ども主体の支援姿勢（自己決定の尊重）	子ども自身が考え、選択し、主体的に活動へ参加できる環境づくりを大切にしています。活動の中で選択できる場面を設けたり、子どもの意見や気持ちを尊重した関わりを行うことで、自分で考えて行動する力を育む支援を心がけています。また、できたことや頑張った過程を言葉で伝えることで、子どもの自信や意欲につながる関わりを大切にしています。	今後も子どもの思いや意見を大切にしながら、主体的に参加できる活動や環境づくりを工夫し、一人ひとりの成長につながる支援の充実を図っていきます。
3	チームで質を高める支援体制	支援の質を高めるため、日々の終礼やミーティングを通して子どもの様子や支援内容の振り返りを行い、職員間で情報共有を行っています。子どもの小さな変化や気づきを共有することで、支援方法の見直しや改善につなげ、チームとしてより良い支援を提供できるよう取り組んでいます。	今後も職員研修や情報共有の機会を大切にしながら職員の専門性向上を図り、チームとして支援の質の向上と安定した支援体制の充実に努めていきます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	支援内容の可視化	運動療育を中心とした支援を行っていますが、活動の目的や子どもの成長とのつながりについて、保護者の方により分かりやすく伝えていく必要があります。	運動プログラムと個別支援計画、発達支援の5領域との関連性を整理し、支援の目的や効果が分かりやすく伝わるよう取り組んでいきます。また、子どもの成長や活動の意図について情報発信を工夫し、支援内容の理解を深めていただけるよう努めていきます。
2	家族支援のさらなる充実	日々の送迎時や連絡帳などで保護者の方と情報共有を行っていますが、子どもの成長や支援の意図について、より丁寧に共有していくことが必要であると感じています。	面談や情報発信の機会を充実させるとともに、保護者の方とのコミュニケーションを大切にしながら、家庭と事業所が連携して子どもの成長を支えていく体制づくりを進めていきます。
3	支援の質向上に向けた体制の強化	日々の振り返りや情報共有は行っていますが、支援記録や振り返りの方法をより整理し、継続的に支援の質を高めていくことが課題です。	職員間での情報共有や振り返りを継続するとともに、研修や学びの機会を通して職員の専門性の向上を図り、チームとして支援の質を高めていける体制づくりに取り組んでいきます。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名	運動療育センター ぐらんど
------	---------------

公表日 2026年 3月 31日

利用児童数 25名

回収数 20名

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1	子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	19	1			
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	14	4		2	送迎は2人体制にして欲しい。 ご意見ありがとうございます。送迎時の安全確保についてのご要望として受け止めております。当事業所では、安全面に十分配慮しながら送迎業務を行っており、必要に応じて職員の複数対応等も検討しながら実施しております。今後も子どもたちが安心して利用できるよう、安全確保に努めてまいります。
	3	生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	20				
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	20				
適切 な 支 援 の 提 供	5	子どものことを十分に理解し、子どもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	17	3			良く観察、理解されてて濃いなと思っております。ありがとうございます！ 温かいお言葉をいただきありがとうございます。お子さまの様子を日々観察し、一人ひとりの特性や発達段階に応じた支援を心掛けているため、そのように感じていただけて大変嬉しく思います。今後もお子さまの成長を大切にしながら、専門性の向上に努め、安心してご利用いただける支援を行ってまいります。
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	18	2			
	7	子どものことを十分理解し、子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	18	2			
	8	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	17	2		1	
	9	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	19	1			
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	16	2		2	
	11	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会がありますか。	6	3	5	6	
12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	20					
13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	19		1			
14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	13	2	1	4	講演会等、開催して欲しい。 思春期の接し方など 貴重なご意見をありがとうございます。思春期の関わり方など、子育てに関する情報提供や学びの機会についてのご要望として受け止めております。今後は、保護者の皆さまが子育てについて学び合える機会や情報提供のあり方についても検討し、家族支援の充実に努めてまいります。	

保護者への説明等	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状態について共通理解ができていると思いますか。	17	3				
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	14	4	1	1		
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	16	3		1		
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	8	2	5	5	保護者同士の交流会を設けて欲しい。普段中々お話しする機会がないため、情報交換をする場があると良い。	貴重なご意見をありがとうございます。保護者の皆さま同士が情報交換できる交流の機会についてのご要望として受け止めております。今後は、保護者の皆さまが交流できる機会や情報共有の場のあり方について検討し、家族支援の充実に努めてまいります。
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	16			4		
	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	16	4				
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	16			4		
22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	18			2			
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	13			7		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	11			9		
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	15	1		4		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	18			2		
満足度	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	18	1		1		
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	17	2		1	予定日に来所するのはイイのですが、やはり土曜日（本来予定にない曜日）は行くことに抵抗あるようです。	ご意見ありがとうございます。日頃の通所を楽しみにしていただいているとのこと、大変嬉しく思います。一方で、普段とは異なる曜日の利用については、お子さまにとって戸惑いや抵抗感が生じる場合もあると考えております。今後もお子さまの気持ちや状況に配慮しながら、安心して通所できるよう支援を行ってまいります。
	29	事業所の支援に満足していますか。	18	1		1	現状、利用時間の延長がなく、利用日を増やしたいと思っても、働いている家庭にとっては利用できない。障害人材の問題があるとは思いますが、今後は延長ができる環境を検討して欲しい。障害のある子の親は時短でしか働けなくなってしまう。	ご意見ありがとうございます。働かれているご家庭にとって、利用時間や利用日の調整が重要であることについて、貴重なご意見として受け止めております。現在は人員体制等の関係もあり、延長利用の対応が難しい状況ではありますが、今後の事業所運営を検討していく上での参考とさせていただきます。今後も保護者の皆さまの状況やニーズを踏まえながら、より利用しやすい環境づくりに努めてまいります。